

172

情報部  
寫

1485

第一課長

中支警二機密谷第二五九號

昭和十五年十一月一日

在上海

中支警務部長事務取扱 堀内干城

第三課長

宛先ハ末尾記載ノ通り

蔣政権ノ物資流出防止策ニ關スル件

本件ニ關シ郵檢ヨリ入手セル浙江省寧波ニ於テ發行スル抗日漢字紙「前綫日報」九月十三日付ニ別添譯出ノ如ク報道シ居ルモ「八一三」當日ニハ貨物検査並ニ輸移出禁止ヲ首題トセル宣傳標語ヲ撒布スル一方貨運検査處ニ於テハ摘要法令迄佈告シ密輸者ノ取締ニ腐心シ居レル情態ニシテ近時我軍ノ各援將「ルート」封鎖爾來物資ノ缺乏ハ覆フコト能ハサル事實ニシテ蔣政権ノ焦躁ヲ窺知スル資料トモ推思

0 213

0530

情報部  
15.11.1  
寫

情報部  
15.11.13  
寫

173

1485

本信爲急行先 外務大臣

張家口	青島	濟南	芝罘	南京大使	在滿大使	厦門	杭州	蕪湖	九江	漢口	香港
五〇	一〇〇	一〇〇	五〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	五〇	五〇	五〇	二〇〇	二〇〇
パタビヤ	スラバヤ	新嘉坡	ダバオ	蘇州	廣東	海口	汕頭	秘露	瓜瑪	墨西哥	晚香坡
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	一〇〇	五〇	五〇	五〇	五〇	二〇〇	二〇〇

0 212

0529

176

1485

目次

一、抗戰期間ニ於ケル運輸貨物ノ検査ノ重要性

二、「八一三」敵貨検査並ニ輸移出禁止宣傳標語

三、摘要法令

以上

0 215

0532

175

1485

セラルルニ付御参考迄別添送付ス

本信送付先 中支各公館長

本信寫送付先 北支警務部長

曾下各署(所)長

0 214

0531

テアル會テ板垣ハ大陸方面ノ兵力維持方法ヲ轉換シ所謂現地調辦ヲ實現スヘク發表シタルカ其ノ言動ニ於テ焦慮振リカ横溢シテキル此ノ進展方法ハ諸軍事政治進展ノ狼狽ニ比較シテ萬倍シテキル蓋シ敵國ハ元來工業立國ニ頼リ數年來其ノ大ナル商品ノ捌口ヲ我國ニ求メ其ノ利得ニヨリ我等ヲ擊ツ武器ヲ製造シテキダノテアル多年ノ軍備ハ今次ノ戰爭ニ依リ皆消耗シタカ其ノ代價ハ毫モ無クシテラズ敗戦ノ微ヲ暴露シツツアルヲ以テ手段ヲ改變シ我經濟資源ノ掠奪ヲ企圖シアリ。

此ノ種ノ進攻手段ハ最モ惡辣テアツテ我等ヲシテ切齒扼腕セシメ協カシ此ノ吸血打髓ノ過患ヲ防斥スル方法ハ如何

我々ハ嚴重ナル検査ヲ施行シ密輸ヲ禁スルト共ニ物資ノ敵地流出ヲ防止シ敵ヲシテ軍事上ニ疲困憊セシムレハ既ニ政治上ニ於テハ施メ術ナク依テ必然的ニ狡猾ナル經濟上ノ陰謀ハ互解シ彼等ノ殘サレタ唯一ノ進路ハ日本全土ニ紙幣(公債)ヲ濫發スルノミトナリ國民

0534

0 217

抗戰期間ニ於ケル運輸貨物ノ検査ノ重要性

今大事變勃發以來北京天津ハ直チニ占領サレ引續「八、一三」所謂上海事變起リ僅カ三ヶ月ニシテ首都ノ陷落ヲ見タリ當時敵ノ意氣物猛ク速戰速決策ヲ採リ然ル後ニ速ニ停戦ヲ結ハントシタ敵ハ盲策ヲ建テタルモ我等ノ忠烈無比ナル反擊ニ遭ヒ打解困難ナル状態トナリタル爲メ遂ニ政策ヲ變更シ政治上ニ之ヲ求メテ大小ノ漢奸ヲ懷柔之ラシテ「以華以制」策ヲ企圖シ就中汪ヲ利用シテ賣國協定ヲ締結シ和平ノ謬説ヲ妄説シテ所謂「東亞新秩序」ノ建設ヲ企圖シタルノテアル

恥ヲ知ラサル俠格者テアル漢奸ノ口號スル和平ハ眞理ニ合シキハ言ヲ俟タス己ニ民衆ハ二十一ヶ條調印時代ノ民衆テハナク欺罔シ能ワス依テ經濟侵略ノ毒計ヲ以テ我カ戦地ノ物資ト人力ヲ利用シ其ノ「以戰套戰」ヲ完成セントシ脆弱ナル經濟的基礎ヲ隱蔽シツツアルノ

0 216

0533

ノ物カ資カノ徵用ニヨツテ最後迄我慢スルヨリ方法ハナクナルノテ  
 アル現在ニ於テモ資金ハ枯竭シ已ニ赤字財政ハ危機ニ類シテキル國  
 内ノ勞働大衆ハ將來必ラス反戦旗幟ヲ堅立シテ起テ植民地ノ被壓迫  
 民族モ亦革命ノ怒濤ニ投入スルハ必然テアツテ被ノ前途ハ滅亡ニ終  
 ルノテアロウ

此ノ運輸貨物ノ検査ハ敵ノ崩壊ヲ促進セシムル一途ニシテ抗戰現段  
 階上ニ於ケル我々ニ取ツテハ最善ノ方策テアル若シ經濟戰ノ主流ヲ  
 運輸貨物ノ検査ニ置カサルトキハ

(一) 敵ハ漢奸ヲ利用シテ偽幣ヲ行使シ金銀ヲ蒐集シ我カ金融政策ヲ攪  
 亂シ而シテ我カ金融統制ハ單ナル幻想ト等シキモノトナル

(二) 敵ハ收税ニ名ヲ籍リテ我カ敗政收入ヲ減少ナラシメル

(三) 敵物資ハ逃税シ居ル關係上廉價ナルヲ以テ之レカ我カ内地ニ侵入  
 スレハ我々工業製品ハ之レニ對抗シ得ス我カ初興工業ハ一大打撃  
 ヲ受ケ發展ヲ期スルコトハ至難テアル

0535

0 218

(四) 土産品及敵貨ノ密輸ハ貿易統制ヲ徹底シ得ス

(イ) 運輸貨物ノ検査ヲナシ敵貨流入ヲ根絶セシメ我々ノ日常需要品  
 ハ必ラス自給自促ヲナシ而シテ利源外ニ溢ルルヲ防キ多クノ不  
 必需品ノ消費及金錢浪費ヲ節約シテ之レヲ諸生産建設事業ニ用  
 ヒ積藏セル資源ト人力ヲ開發ニ使用シ以テ國力ノ増進ヲ計ルノ  
 テアル

(ロ) 富源ノ開發ハ失業者ニハ勞力ヲ資本家ニハ出資ヲナサシメテ勞  
 資ノ提携ヲ圖レハ社會經濟ハ愈々發展シ人心カ安定セハ民衆ノ  
 抗戰意識モ亦激増シ得ルテアル

以上ヲ綜合スルニ贅言ヲ竝ヘタル如キ觀アルモ經濟戰ハ抗戰前途ニ  
 最も重要テアリ運輸貨物ノ検査ハ經濟戰ノ主幹ヲナスモノト言ツテ  
 モ憚ラス此ノ悲壯ナル記念日ニ際シ特ニ此ノ意義ヲ述ヘ民衆ノ攬性  
 ヲ促シ復仇大義ヲ明ニシ誓死相戒ノ敵貨ノ不用不買ハ基ヨリ土産品  
 リ敵ニ資セラルルヲ防キ更ニ各工作員ニ望ムコトハ犠牲的精神ノ抱

0536

0 219

181

1495

持、態度、公正、横暴、謹慎、私心ノ放棄、工作、忠勇、ト全時ニ  
各關係機關ト協力シテ密運ノ檢舉ニ務メ抗戰建國ノ前進ヲ敵ニ乗セ  
ラレサルコトヲ期スヘシ

0.220

0537

REEL No. A-0243

0 3 5 7

二「八一三」敵貨検査並ニ輸移發禁止宣傳標語

(一)「八一三」記念ヨシテ敵貨物密輸者ニ注意シ密輸者ヲ最重監  
視スルコト

(二)對敵經濟封鎖ハ敵ノ經濟侵略ヲ粉碎スルニ最モ有効ナル方法  
デアリ

(三)敵ノ以「戰養戰」陰謀ヲ打破スルニ對敵經濟封鎖ヲ徹底的ニ  
實行スヘシ

(四)密運車ノ逮捕ハ抗戰建國ノ必要工作デアリ

(五)抗戰勝利獲得ニハ須テ密輸ノ根絶ヲ期スルニアリ  
敵貨ノ不買ト土貨ノ不買ハ就テ對敵經濟封鎖デアリ

(六)凡ソ敵ノ力量ヲ增加セシムル物品ハ絶對ニ敵ニ與ヘス利用サセヌ  
ヲ  
(七)私利ニ走り敵貨ヲ密輸或ハ陰匿者ハ經濟漢奸デアリ

(八)軍民一致協力シテ敵貨ノ検査禁止ヲナシ敵貨ヲ買ハサルコト

(九)民衆ハ自ララシテ密輸者ヲ檢挙スヘシ

(一〇)各人ハ責任ヲ以テ密輸者ヲ嚴探スヘシ  
三密輸者ヲ密シタル者ニ賞金ヲ與ヘル

(一一)秘ニ敵側ニ走ル者ハ何處ニテモ最重處罰ス

(一二)敵側ニ走ル者ハ國家ノ國族デアリ  
(一三)同胞ヨ起テ敵トノ密運者(漢奸)ヲ肅正セヨ  
天敵貨ノ販賣密輸ハ墓穴ヲ掘ルコトデアリ

(一四)「八一三」記念日ハ敵側ノ「以戰養戰」陰謀ヲ探知スヘシ  
サルコト  
(一五)「八一三」記念日ニ國家資源ヲ愛護シ以テ敵ニ利用セラレ  
サルコト

(一六)「八一三」記念日ハ浪費ヲ消キ儉約ノ勵行スルコト  
(一七)「八一三」記念日ハ後裔ヲ買ハヌコト

183

1485

一八一三記念日ニハ奸商ヲ一掃スヘシ  
 二貨物買賣ニハ敵ノ奸計ニ乘セラレヌ様注意スルコト  
 三金銀ヤ中國紙幣ヲ愛護シ敵ニ落手セヌ様計ルコト

0 223

C. 0539

REEL No. A-0243

三 摘要法令

貨運検査處

一 貨運検査ノ主管機關

- (1) 財政部ニ於テハ貨物私運ノ防止ヲナス旨ヨリ戰区接近ノ各重要地與ニ戰区貨物検査處ヲ設置シ該区出入貨物ノ検査及ヒ徵稅事務ヲ處理セシム
  - (2) 海關或ハ貨運検査處ノ設置シタル地方ハ各種検査ヲ海關及ヒ貨運検査處ニ委託處理セシムルヲ原則トス
  - (3) 海關或ハ貨運検査處未設ノ地ニ於テハ各地最高行政官署ニ於テ適當ナル地與ニ地方聯合検査所ヲ設立之ヲシテ當ラシム
- ニ禁止敵貨物及懲罰
- (1) 敵貨ヲ一律ニ輸入及ヒ國內消費ヲ禁止ス
  - (2) 左記各種貨物ヲ敵貨ト稱ス

- (イ) 敵國及其ノ殖民地並ニ委任統治地ノ貨物
- (ロ) 前條区域外ノ工場商店並ニ敵ノ投資商社ノ貨物
- (ハ) 第一條區域外ノ工場商社ニテ敵人ニ統製ヲ奪取サレ或ハ利用セラレタル貨物

(3) 敵貨取押ハ彼ハ地方主管官署ヨリ上級官署ニ之ヲ沒收ヲ報告スヘシ

(4) 左ノ各一條ニ適當スルモノハ一年以上七年以下ノ有期懲役並ニ併科五千元以下ノ罰金ニ處ス且ツ其ノ情重大ナル者ハ死刑或ハ無期懲役ニ處ス

- (イ) 敵貨ヲ輸入運輸或ハ販賣ナレリルモノ
- (ロ) 敵貨ヲ以下國貨ニ或ハ他國貨物ニ改装ナシタルモノ
- (ハ) 敵貨ノ検査鑑別登記及處分ノ事務ニ從事スルモノニシテ若シ敵貨ニ庇護許諾或ハ其他私利ヲ營ヒタル事實アリタル時ハ死刑或ハ



無罪後刑ニ處ス

三 政府統制販賣貨物

- (1) 桐油
- (2) 豚毛
- (3) 茶
- (4) 磁産物

四 特殊物品ニシテ輸出ヲ禁止サレ居ルモノ

- (1) 金、銀
- (2) 金製品、銀製品
- (3) 紙幣(法幣ト外幣ト合シ)
- (4) 外貨ニ因リテ輸出貨物
- (5) 輸出禁止物品

五 密告ノ獎勵

没入セル敵貨ハ價格ヲ計算シテ密告者ニ參割沒收者ニ貳割ヲ  
 獎與シ傷病兵ノ慰勞トシテ貳割前敵將士慰勞トシテ貳割壹  
 割ヲ難民救済ニ下附ス

185

12 E

0-226

0541

187

1485

曝露すると全時に將來の國共關係を示唆する好個の資料なるに付、  
下警察官に御示達相成度  
右通報申進す

本信送付先 管下各公館長  
本信寫送付先 管下各警察署(分)長 派遣所長

北支警務部長 天津、青島、北京、濟南

外務省

(日本標準規格B5)

0 228

0543

186

1485

中支警二機密合第二六二號

昭和十五年十一月一日

在 上 海

中支警務部長事務取扱 堀内干城

共產軍の韓德勳彈劾傳單譯報に關する件

本文獻は新四軍蘇北(江蘇省北部)政治部が九月八日附を以て發出  
したる傳單の譯文なるか其の内容は新四軍と九月四日より三晝夜蘇  
北區に於て偽江蘇省政府主席韓德勳の率ひる第八十九軍(一一七師  
及三〇師より編成さる)との間に武力衝突事件ありたる經過を記述  
し其の衝突に至れる原因は總て「韓」側の非に在りとなして民衆に  
呼掛け一方「韓」排斥の輿論を喚起し以て「韓」を失脚せしむると  
共に他方民心を收攬して新四軍支持の機運を醸成せむとの意圖に出  
てたるものにして近來喧傳せらるる國共兩軍の衝突の内面的事情を

外務省

(日本標準規格B5)

0 227

0542

REEL No. A-0243

189

1485

北人民の親しく認むる所であつて此の道理からすれば功績あるも何等の過失なき本軍は賞に與るべきも罪を問はれる謂はれないのである。然るに江蘇省政府主席韓德勤は事實を曲解し眞理を無視し本軍に協力して敵及偽軍に打撃を與へ敵後方に於ける抗戦を堅持せざるのみならず逆に其の所謂國防軍を動員して本軍の駐屯地域に對して不法の壓迫を加へ我等を驅逐せんと企圖の下に我抗戦軍隊に對して背面から攻撃を加へたのである。此の事實は敵をして快哉を叫はしむるもので味方の痛恨する處である。

其の意志は蘇北の局面を分裂せんとするにあるへく其の行爲より察するに口先で如何に抗戦堅持を説くも實質的には抗戦を破壊するものであり表面上敵及偽軍に反對しては居るか實質上、客觀上では敵を援助し新四軍を夾撃するものである。

我軍は大敵を眼前に控へ居れる現狀に鑑み民族至上の趣旨を體して終始韓德勤の斯る措置に對しても婉曲に對懸すべく本軍服屬團々長

(日本標準規格B5)

0 230

0545

外務省

188

1485

韓德勤が新四軍を攻撃せることに反對する  
新四軍側の「蘇北同胞に告ぐる書」

蘇北（江蘇省北部）の父老兄弟姉妹達よ

本軍は七月二十九日黃橋民衆の要求によつて何克謙匪軍を驅逐して何軍の掠奪と蹂躪下に在つた民衆を解放した。然るに意外にも本月四日本軍は又しても韓德勤の攻撃を受け之か爲めに全中國全蘇北人民の團結を要求し抗戦を堅持せんとする願望に大なる悪影響を與へたことは本軍全體將兵の遺憾とする處である。

同胞諸君よ、本軍が深く敵の後方に侵入して揚子江南北の抗戦を堅持し民衆を發動して敵及偽軍を撃破する爲めに死生の間に入出し居れることは衆知の事實であつて八月中旬には本軍は靖江、南通間の孤山鎮、老莊頭の敵據點を進撃して數十名の敵及偽軍を俘虜とし進んで西米鎮の敵軍に重大なる打撃を與へた。本軍が如何なる犠牲をも物ともせず抗戦事業の爲めに闘争せんとする決心あることは全蘇

(日本標準規格B5)

0 229

0544

外務省

REEL No. A-0243

191

1485

奉せざるものなりと誣ひ民衆を欺瞞して友軍を煽動して本軍を攻撃する口實を作つたのである。本來此種無恥なる誣言は愚婦と雖も一笑に附すへき事柄で本軍が改めて説明する迄もない明白な事實である。

本來本軍が黃橋に進駐した當初省政府は百十七師政治部主任仇藩生を派遣して本軍と友好的に交渉し姜堰、曲塘、海安の線界とし韓軍は南下せず本軍も亦北進せず互ひに其の防禦線を守つて協力して抗敵することを協議し其の結果頗る圓滿に解決したのである。夫れにも拘らず事實は韓德勤自ら其の約言を破棄して遂ひに大舉南進して内戦を起し而も命令を違かざるの罪を本軍に轉嫁し同時に東南面人民の糧食を封鎖したのである。此の行動は單に本軍に反對せるのみならず通、如、泰興、靖江四縣の数百万人民に反對したのである其の惡辣さは何等か爲にせることは想像に難からざる處であつて凡そ血に燃ゆる者の均しく憤慨する處である。

外務省

(日本標準規格B5)

0 232

0547

190

1485

朱克靖を泰州の李總指揮部に派遣して陳情せしめ同時に省政府の數要人とも面談して双方が忍耐して武力に訴ふるか如きことなく以て内部の團結を鞏固にすへきてあることを力説したのであつた。

處か意外にも韓德勤は大局を顧ることなく遂ひに本月四日所屬部隊を率ひて南進し本軍に對して進撃して來た。當時本軍は葉挺、項英正副軍長の電令によつて隱忍し中國共產黨中央が團結を主張せる趣旨を堅持すへく普溪、花園橋、野周莊の防禦線に後退したのであつたか韓德勤は寸を得て尺を進め我等を消滅せされは止まざるの態勢を示した。本軍は此の危急存亡の時に際し自衛上と抗戦力を保存する爲めに已むを得ず應戦し攻撃者に反撃を加へたか之れは本軍としては全く忍び得ざる處であり已むを得ざるに出たのであつた。

同胞諸君よ、事實は眼前に展開して居る何れか是にして何れか非なるか又何れか大局を顧慮し何れか抗戦を破壊し居れるかは本軍が辨明する迄もない處である。處か韓德勤は本軍を共産分子にして命を

外務省

(日本標準規格B5)

0 231

0546

192

1435

九月四日韓軍が南進して遼東を壇にしてより古溪、盧家橋、管溪一線に於て兩軍相對峙すること三晝夜に及んだ其の結果韓軍は支ふるを得ずして惨敗し北方に退去した。本軍は其の際武力を以て韓軍を迫撃之を殲滅することか出来たのであつたか國力を愛惜し大局を顧慮して依然平和的解決を主張し之を急迫しなかつたのである。此の際蘇北軍民は韓德勸か勇退しなからば蘇北の局面は明明化しないことを充分に認識するの必要がある蘇北の黨、政、軍、民は正義を振翳し是非を辨別し一致奮起して腐敗分子を驅逐し民氣を發揚し民力を發動して勞、農、商、學、兵各界が一致團結して大蘇北の局面を再建し大蘇北を保衛する爲めに闘争せんことを希望するものである。

新四軍蘇北政治部

九月八日

外務省

(日本標準規格B5)

0 233

0548

REEL No. A-0243

0365

機密

1435

第一課長

193

機密第三九六四號

昭和十五年十一月一日

在 上海

總領事 堀 内 干

外務大臣 松岡 洋 右 殿

支那文宣傳冊子送付ノ件

支那文宣傳用「パンフレット」「民心」第七十期十部別添ノ通り茲ニ送付ス御查收相成度シ

課書文  
15.11.8  
受取

陸軍省  
陸軍部  
陸軍省  
陸軍部

情  
15.11.9  
送

別冊添付

0 234

0549

在上海日本總領事館

REEL No. A-0243

0355

1485

情報部

中支警二機密合第二六二號

昭和十五年十一月一日

第三課長

在上海

中支警務部長事務取扱 堀内干城



0550

情報部 寫

宛先ハ末尾記載ノ通り

共產軍ノ韓德勳彈劾傳單譯報ニ關スル件

本文獻ハ新四軍蘇北(江蘇省北部)政治部カ九月八日附ヲ以テ發出シタル傳單ノ譯文ナルカ其ノ内容ハ新四軍ト九月四日ヨリ三晝夜蘇北區ニ於テ僞江蘇省政府主席韓德勳ノ率ヒル第八十九軍(一一七師及三〇師ヨリ編成サル)トノ間ニ武力衝突事件アリタル經過ヲ記述シ其ノ衝突ニ至レル原因ハ總テ「韓」側ノ非ニ在リトナシテ民衆ニ呼掛ケ一方「韓」排折ノ輿論ヲ喚起シ以テ「韓」ヲ失脚セシメムル

0.235

0551

1486

ト共ニ他方民心ヲ收攬シテ新四軍支持ノ機運ヲ醸成セムトノ意圖ニ出テタルモノニシテ近來喧傳セラルル國共兩軍ノ衝突ノ内面的事情ヲ曝露スルト全時ニ將來ノ國共關係ヲ示唆スル好個ノ資料ナルニ付 藏下警察官ニ御示達相成度 右通報申進ス

本信送付先 管下各公館長

本信寫送付先 管下各警察署(分)長 派遣所長

北支警務部長 天津、青島、北京、濟南

0.236

197

1485

ノ過失ナキ本軍ハ賞ニ與ルヘキモ罪ヲ問ハレル謂ハレハナイノデア  
 ル。然ルニ江蘇省政府主席韓德勸ハ事實ヲ曲解シ眞理ヲ無視シ本軍  
 ニ協力シテ敵及偽軍ニ打撃ヲ與ヘ敵後方ニ於ケル抗戰ヲ堅持セサル  
 ノミナラス逆ニ其ノ所謂國防軍ヲ動員シテ本軍ノ駐屯地域ニ對シテ  
 不法ノ壓迫ヲ加ヘ我等ヲ驅逐セントノ企圖ノ下ニ我抗戰軍隊ニ對シ  
 テ背面カラ攻撃ヲ加ヘタノデアアル。此ノ事實ハ敵ヲシテ快哉ヲ叫ハ  
 シムルモノテ味方ノ痛恨スル處デアアル。  
 其ノ意志ハ蘇北ノ局面ヲ分裂セントスルニアルヘク其ノ行爲ヨリ察  
 スルニ口先テ如何ニ抗戰堅持ヲ説クモ實質的ニハ抗戰ヲ破壊スルモ  
 テアリ表面上敵及偽軍ニ反對シテハ居ルカ實質上、客觀上テハ敵  
 ヲ援助シ新四軍ヲ夾撃スルモノデアアル。  
 我軍ハ大敵ヲ眼前ニ控ヘ居レル現狀ニ鑑ミ民族至上ノ趣旨ヲ体シテ  
 終始韓德勸ノ斯ル措置ニ對シテニ婉曲ニ對應スヘク本軍服務團々長  
 朱克清ヲ泰州ノ李總指揮部ニ派遣シテ陳清ヲシメ同時ニ省政府ノ

0 238

0553

196

1485

ニ行ニスル  
 韓德勸カ新四軍ヲ攻撃セルコトニ反對スル新四軍側ノ「蘇北同胞ニ告クル書」  
 蘇北（江蘇省北部）ノ父老兄弟姉妹達ヨ  
 本軍ハ七月二十九日黃橋民衆ノ要求ニヨツテ何克謙匪軍ヲ驅逐シテ  
 河軍ノ掠奪ヲ蘇屬下ニ在ツタ民衆ヲ解放シタ。然ルニ意外ニモ本月  
 四日本軍ハ又シテモ韓德勸ノ攻撃ヲ受ケ之カ爲メニ全中國全蘇北人  
 民ノ團結ヲ要求シ抗戰ヲ堅持セントスル願望ニ大ナル惡影響ヲ與ヘ  
 タコトハ本軍全体將兵ノ遺憾トスル處デアアル。  
 同胞諸君ヨ、本軍カ深ク敵ノ後方ニ侵入シテ揚子江南北ノ抗戰ヲ堅  
 持シ民衆ヲ發動シテ敵及偽軍ヲ擊破スル爲メニ死生ノ間ニ出入 居  
 レルコトハ衆知ノ事實デアツテ八月中旬ニハ本軍ハ靖江、南通間ノ  
 孤山鎮、老莊頭ノ敵據點ヲ進撃シテ數十名ノ敵及偽軍ヲ俘虜トシ進  
 シテ西米鎮ノ敵軍ニ重大ナル打撃ヲ與ヘタ。本軍カ如何ナル犠牲ヲモ  
 物トモセス抗戰事業ノ爲メニ闘争セントスル決心アルコトハ全蘇北  
 人民ノ親シク認ムル所デアツテ此ノ道理カラスレハ功績アルモ何等

0 237

0552



189

1485

要人トモ面談シテ双方カ忍耐シテ武力ニ訴フルカ如キコトナク以テ  
 内部ノ團結ヲ鞏固ニスヘキテアルコトヲ力説シタノデアツタ。  
 處カ意外ニモ德勤ハ大局ヲ顧ルコトナク遂ヒニ本月四日所屬部隊  
 ヲ率ヒテ南進シ本軍ニ對シテ進撃シテ來タ。當時本軍ハ葉挺、項英  
 正副軍長ノ電令ニヒツテ、隱忍シ中國共產黨中央カ團結ヲ主張セル趣  
 旨ヲ堅持スヘシ管溪、花園橋、野屬甚ノ防禦線ニ後退シタノデアツ  
 タカ、德勤ハ寸ヲ得テ尺ヲ進メ我等ヲ消滅セサレハ止マサルノ態勢  
 ヲ示シタ。本軍ハ此ノ危急存亡ノ時ニ際シ自衛上ト抗戦力ヲ保存ス  
 ル爲メニ已ムヲ得ス應戦シ攻撃者ニ反撃ヲ加ヘタカ之レハ本軍トシ  
 テハ全ク忍ビ得サル處テアリ已ムヲ得サルニ出テタノデアツタ。  
 河鹿諸君ヨ、事實ハ眼前ニ展開シテ居ル何レカ是ニシテ何レカ非ナ  
 ルカ又何レカ大局ヲ顧慮シ何レカ抗戦ヲ破壞シ居レルカハ本軍カ辯  
 明スル迄モナイ處テアル。處カ善德勤ハ本軍ヲ共產分子ニシテ命ヲ  
 奉セサルモノナリト誣ヒ民衆ヲ欺瞞シテ友軍ヲ煽動シテ本軍ヲ攻撃  
 スル口實ヲ作ツタノデアル。本來此種無恥ナル誣言ハ愚婦ト雖モ一  
 笑ニ附スヘキ事柄テ本軍カ改メテ説明スル迄モナイ明白ナ事實テア  
 ル。  
 本來本軍カ黃橋ニ進駐シタ當初省政府ハ百十七師政治部主任仇滯生  
 ヲ派遣シテ本軍ト友好的ニ交渉シ姜堰、曲塘、海安ノ線界トシ韓軍  
 ハ南下セス本軍モ亦北進セス互ヒニ其ノ防禦線ヲ守ツテ協力シテ抗  
 敵スルコトヲ協議シ其ノ結果頗ル圓滿ニ解決シタノデアル。夫レニ  
 モ拘ラス事實ハ韓德勤自ラ其ノ約言ヲ破棄シテ遂ヒニ大舉南進シテ  
 内戦ヲ起シ而テ命令ヲ聽カサルノ罪ヲ本軍ニ轉嫁シ同時ニ東南面人  
 民ノ糧食ヲ封鎖シタノデアル。此ノ行動ハ單ニ本軍ニ反對セルノミ  
 ナラス通、如、泰興、靖江四縣ノ數百万人民ニ反對シタノデア  
 ル其ノ惡辣サハ何等カ爲ニセルコトハ想像ニ難カラサル處テアツテ凡  
 ソ血ニ燃ユル者ノ均シク憤慨スル處テアル。  
 九月四日韓軍カ南進シテ慘虐ヲ極ニシテヨリ古溪、蘆家橋、管溪一

0-240

0555

188

1485

要人トモ面談シテ双方カ忍耐シテ武力ニ訴フルカ如キコトナク以テ  
 内部ノ團結ヲ鞏固ニスヘキテアルコトヲ力説シタノデアツタ。  
 處カ意外ニモ德勤ハ大局ヲ顧ルコトナク遂ヒニ本月四日所屬部隊  
 ヲ率ヒテ南進シ本軍ニ對シテ進撃シテ來タ。當時本軍ハ葉挺、項英  
 正副軍長ノ電令ニヒツテ、隱忍シ中國共產黨中央カ團結ヲ主張セル趣  
 旨ヲ堅持スヘシ管溪、花園橋、野屬甚ノ防禦線ニ後退シタノデアツ  
 タカ、德勤ハ寸ヲ得テ尺ヲ進メ我等ヲ消滅セサレハ止マサルノ態勢  
 ヲ示シタ。本軍ハ此ノ危急存亡ノ時ニ際シ自衛上ト抗戦力ヲ保存ス  
 ル爲メニ已ムヲ得ス應戦シ攻撃者ニ反撃ヲ加ヘタカ之レハ本軍トシ  
 テハ全ク忍ビ得サル處テアリ已ムヲ得サルニ出テタノデアツタ。  
 河鹿諸君ヨ、事實ハ眼前ニ展開シテ居ル何レカ是ニシテ何レカ非ナ  
 ルカ又何レカ大局ヲ顧慮シ何レカ抗戦ヲ破壞シ居レルカハ本軍カ辯  
 明スル迄モナイ處テアル。處カ善德勤ハ本軍ヲ共產分子ニシテ命ヲ  
 奉セサルモノナリト誣ヒ民衆ヲ欺瞞シテ友軍ヲ煽動シテ本軍ヲ攻撃  
 スル口實ヲ作ツタノデアル。本來此種無恥ナル誣言ハ愚婦ト雖モ一  
 笑ニ附スヘキ事柄テ本軍カ改メテ説明スル迄モナイ明白ナ事實テア  
 ル。  
 本來本軍カ黃橋ニ進駐シタ當初省政府ハ百十七師政治部主任仇滯生  
 ヲ派遣シテ本軍ト友好的ニ交渉シ姜堰、曲塘、海安ノ線界トシ韓軍  
 ハ南下セス本軍モ亦北進セス互ヒニ其ノ防禦線ヲ守ツテ協力シテ抗  
 敵スルコトヲ協議シ其ノ結果頗ル圓滿ニ解決シタノデアル。夫レニ  
 モ拘ラス事實ハ韓德勤自ラ其ノ約言ヲ破棄シテ遂ヒニ大舉南進シテ  
 内戦ヲ起シ而テ命令ヲ聽カサルノ罪ヲ本軍ニ轉嫁シ同時ニ東南面人  
 民ノ糧食ヲ封鎖シタノデアル。此ノ行動ハ單ニ本軍ニ反對セルノミ  
 ナラス通、如、泰興、靖江四縣ノ數百万人民ニ反對シタノデア  
 ル其ノ惡辣サハ何等カ爲ニセルコトハ想像ニ難カラサル處テアツテ凡  
 ソ血ニ燃ユル者ノ均シク憤慨スル處テアル。  
 九月四日韓軍カ南進シテ慘虐ヲ極ニシテヨリ古溪、蘆家橋、管溪一

0-239

0554

1485

線ニ於テ兩軍相對峙スルコト三晝夜ニ及ンタ其ノ結果韓軍ハ支フルヲ得スシテ慘敗シ北方ニ退却シタ。本軍ハ其ノ際武力ヲ以テ韓軍ヲ追撃之ヲ殲滅スルコトカ出來タノテアツタカ國力ヲ愛惜シ大局ヲ顧慮シテ依然平和的解決ヲ主張シ之ヲ急追シナカッタノテアル。此ノ際蘇北軍民ハ韓德勳カ勇退シナイナラハ蘇北ノ局面ハ明朗化シナイコトヲ充分ニ認識スルノ必要カアル蘇北ノ黨、政、軍、民ハ正義ヲ振興シ是非ヲ辨別シ一致奮起シテ腐敗分子ヲ驅逐シ民氣ヲ發揚シ民力ヲ發動シテ勞、農、商、學、兵各界カ一致團結シテ大蘇北ノ局面ヲ再建シ大蘇北ヲ保衛スル爲メニ闘争セシコトヲ希望スルモノテアル。

新四軍蘇北政治部

九月八日

0556

200

1485

情報部  
寫

情報部

中支警二機密合第二六一號

昭和十五年十一月一日

在上海

第三課長

15.11.14

情  
15.11.14  
0557

中支警務部長事務取扱 堀内干城

第一課長

宛先ハ末尾記載ノ通り

0242

バルト三國ノ聯邦併合後ノ在滬同國人ノ動靜ニ關スル件  
元來英佛ノ「ソ」聯包圍ノ緩衝地帯トシテ成立セル「バルト」三國ハ道般ノ歐州大戰ニ於テ英國ノ全面的退勢ニ依リテ後盾ヲ無クシ加之ソ聯邦ノ重壓ニ拮抗スル力量ヲ有セス遂ニ併合セララルニ至レルカ極東就中滿洲國內各地及上海天津等ニハ之等「バルト」三國籍ヲ有スル者相當數ニ上リ然モ彼等ハ本國ト其ノ利害必スシモ一致シ居ラサル環境下ニ在リ其ノ動向ニ對シテハ銳意内偵中ナルカ一部ハ「

201

203

1485

別添

當地「エストニヤ」・「ラトヴィヤ」・「リトバニヤ」各領事館ニ於テハ、八月初旬各本國政府ヨリ蘇聯邦併合ニ關スル正式通達ニ接シタルガ、蘇聯邦側ニ於テハ當地ニ東京蘇聯邦大使館領事部長「B. フトケウキチ」ヲ派シ、「バルト」三國蘇聯邦併合後ニ於ケル當地「バルト」三國人ニ對スル蘇聯邦籍取得手續及ヒ當地「バルト」三國各領事館ノ整理ヲ命シタリ。

「B. フトケウキチ」ハ九月十日上海丸ニテ來滬、直ニ出迎ヘノ當地蘇聯邦總領事館代表「シャリコフ」ト共ニ當地黃浦路二十號所在蘇聯邦總領事館ニ赴キ九月十二日當地發行赤系露字新聞「ノイヴォステドニヤ」紙ニ廣告ヲ爲シ「九月十二日ヨリ全十六日迄毎日、自午前九時至午前十一時間「バルト」三國人ニ對スル國籍登錄ヲ受付クル旨」布告シ全日ヨリ當地蘇聯邦總領事館ニ於テ國籍登錄事務ヲ開始セリ。

0 244

0559

202

1485

ソ」籍ヲ取得シ一部ハ「エミグランド」トシテ發ルコトトナル模様ニシテ其ノ狀況別添ノ通ニ付隸下警察官ニ參考資料トシテ御示違相成度

右通報申進ス

本信送付先 中支各公館長  
 本信寫送付先 管下各警察署（所）長  
 北支警務部長、天津、青島、香港

0 243

0558

右第一回ニ於ケル國籍登録ニ出願セル「バルト」三國人數ハ

- 1、エストニヤ人 約三十名
  - 2、ラトビヤ人 約十五名
  - 3、リトバニヤ人 約四十名
- ニシテ豫想外ニ登録出願數少ナキ爲メ登録受付ヲ九月十九日乃至二十一日ノ三日間ニ延期シ三日限當地ニ於ケル國籍登録受付事務ハ一應終結シタルカ、九月二十一日後ニ於ケル當地在住「バルト」三國人ノ蘇籍取得手續ハ各人カ直接在東京蘇聯邦大使館ニ對シ行フヘキモノニシテ締切日ヲ十一月一日ニ限定セリ。
- 第一回・第二回ノ兩期間ニ於テ當地蘇聯邦總領事館ニ登録セル「バルト」三國人數ハ
- 1、エストニヤ人 全當地在住者一四〇名ノ内九〇名 六五%
  - 2、ラトビヤ人 " " 一〇四名ノ内八〇名 八〇%
  - 3、リトバニヤ人 " " 九二名ノ内七〇名 七五%

ナリ、而シテ「B. プトケウキチ」ハ九月二十日肩書當地所在蘇聯邦總領事館ニ當地外人新聞記者等ヲ招待シ當「バルト」三國人問題ニ關シ大様左ノ如キ談ヲ爲セリ。

記

「私ハ九月十日上海丸ヲ在東京蘇聯邦總領事館領事部長トシテ當地「バルト」三國人問題ニ關スル任ヲ帶ヒ來滬シタカ、事務多忙ノ爲新聞記者諸君ヲ直チニ招待シ得ナカツタ事ハ残念デアル。私ノ來滬理由ハ前述ノ様ニ「バルト」三國人ノ蘇聯邦併合後ニ於ケル當地「バルト」三國人ニ對スル蘇聯邦籍取得手續及ヒ當地「バルト」三國人ニ對スル蘇聯邦籍取得ノ事務ハ先ツ百パーセントノ成功ヲ見タモノト信シテキル。

斯様ナ好成绩ヲ擧ゲタコトハ、當地「バルト」三國人カ、各本國政府ノ態度ニ非常ナル好感ヲ抱持シテキルト謂フ事ヲ證明スルモ

テアル。  
 「バルト」三國人ノ蘇聯邦籍取得ニ關シテハ既ニ蘇聯邦最高會議ニ於テ決議セラレタ如ク「バルト」三國人ハ「バルト」國內・國外在住ラ間ハ蘇聯邦籍ヲ取得シ得ルノテアルカ、現在上海ニ於ケル未登録者ハ遅クモ十一月一日迄ニ在東京蘇聯邦大使館ニ個人的ニ登録スヘキモノデアツテ天レ以後ハ失効スルコトナツテ居ル。

今後、當地「バルト」三國人ハ蘇聯邦人ト同様當地「ノールヴェーグ」總領事館ニ於テ彼等ノ權益保護ヲ爲スコトトナルノテアルガ領事館事務ニ關シテハ在東京蘇聯邦大使館ニ於テ行フノテアル。私ノ受付ケル「バルト」三國人ノ登録出願數ニ關シテハ確答シ得ナイガ大体

1、エストニア人 九〇%  
 2、ラトヴィヤ人 九〇%  
 3、リトバニヤ人 八〇%

デアツテ、殆ト當地居住「バルト」三國人ノ八十パーセント乃至九十九パーセントガ蘇聯邦總領事館ヲ訪問シテ來タ事トナル云々」

ノ後十月十三日當地蘇聯邦人俱樂部ニ於テハ新タニ蘇聯邦籍トナリタル「バルト」三國人ニ對スル歓迎會ヲ開催シ、全會ニハ蘇聯邦人三十五名、「バルト」三國人五十五名出席セリ、席上蘇聯邦人ヲ代表シ蘇聯邦人俱樂部會長「コロタサンヂヤリ」ハ「バルト」三國人ノ蘇聯邦併合ニ關スル祝辭ヲ述ベ「バルト」三國人側ヨリ是ニ對スル謝辭ト將來ノ友誼ヲ希望スル旨ヲ開陳セリ。然ルニ一方「バルト」三國人ノ蘇聯邦併合ヲ不滿トスル「バルト」三國人モ尠ナカラズ殊ニ「エストニア」領事館ハ書類ノ引繼ヲ拒否シツツアリタル爲、十月十八日「シヤリコフ」及ヒ「ブトケウキチ」ハ當地第一法院ニ對シ「エストニア」領事館ノ書類及ヒ記録類ノ引渡方ヲ提シ全館名譽書記官「ミラー」外四名カ之ヲ拒否セルモ結局工部局西虹口署ノ執

「バルト」三國人ノ蘇聯邦籍取得ニ關シテハ既ニ蘇聯邦最高會議ニ於テ決議セラレタ如ク「バルト」三國人ハ「バルト」國內・國外在住ラ間ハ蘇聯邦籍ヲ取得シ得ルノテアルカ、現在上海ニ於ケル未登録者ハ遅クモ十一月一日迄ニ在東京蘇聯邦大使館ニ個人的ニ登録スヘキモノデアツテ天レ以後ハ失効スルコトトナツテ居ル。

今後、當地「バルト」三國人ハ蘇聯邦人ト同様當地「ノールヴェーグ」總領事館ニ於テ彼等ノ權益保護ヲ爲スコトトナルノテアルガ領事館事務ニ關シテハ在東京蘇聯邦大使館ニ於テ行フノテアル。私ノ受付ケル「バルト」三國人ノ登録出願數ニ關シテハ確答シ得ナイガ大体

1、エストニア人 九〇%  
 2、ラトヴィヤ人 九〇%

209

1485



機密

外務大臣

機密合第七九號

第三課長

昭和十五年十一月一日

在上海

總領事 堀内 干城

送付先末尾ノ通り

支那の宣傳冊子送付ノ件

支那の宣傳冊子「インフレンツ」 「民心」等七十期左記郵政送付ノ出  
所ノ秘シ例ノ通り可然御利用相成候シ

0 250

文書  
13.11.13  
交收

情  
15.11.14  
0565

208

1489

行ニ依リ此等書類ハ法院ニ押收セラレタリ、最初相當紛糾ヲ生スル  
哉ノ感ヲ呈シタル「バルト」三國人ノ登錄問題及ヒ領事館引渡問題  
モニコニ一應解決セリ。

六

0 249

0564

110

1485

本 信 寫 送 在 北	大 新 嘉 坡	ス ラ バ ヤ	マ タ ビ ヤ	盤 谷	在 滿 大 使	南 京 大 使	南 京 大 使	芝 罈	濟 南	青 島	張 家 口	天 津	北 京 參 事 官
				一	一	二	二	一	二	一	三	三	記
外 務 大 臣	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	部

水 師 提 督	廣 西	欽 州	秘 魯	汕 頭	海 防	廣 東	香 港	漢 口	九 江	蕪 湖	杭 州	慶 州	餘 州
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

0 251

0566

REEL No. A-0243

0 3 7 5

第三課長

普通第三〇〇八號

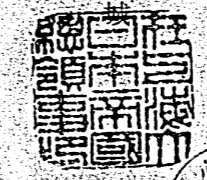
昭和十五年十一月五日

第一課長 1435

在上海

總領事 堀内 干

外務大臣 松岡 洋右 殿



別紙添付

15.11.13

15.11.21

東京局  
第一  
昭相(結果)  
本件(新任)  
御持出(入)

十月三日付  
外務大臣  
東京局  
御持出(入)  
御持出(入)

在倫敦朝日特派員ノ通信ヲ報セル東京發「ロイ  
ター」電報告ノ件

十一月二日當地各英字紙ハ在倫敦朝日新聞特派員カ倫敦到着后豫期  
ニ反シ万事平常ト變ラス今日ノ困難ナル狀況下ニ市民カ極メテ平靜  
沈着ニ事ニ當リツ、アルヲ見テ驚異ト讚賞トノ念ヲ起セル旨報セル  
趣ヲ一日東京發「ロイター」電トシテ相當大キク掲載シ居レルニ付  
原文相添右何等御參考迄報告申進ス

在上海日本總領事館

0-252

0567

REEL No. A-0243



新 聞 名 North China Daily News 昭 和 年 11 月 2 日 1940 年 民 國

# Japanese Admiration of Londoners' Spirit

## Despatch to "Asahi" Describes Calmness, Composure of Britons in Danger from Attacks by Air

Tokyo, Nov. 1.

"I CANNOT help but express my amazement at and admiration for the people of London who can be so calm and composed under such strained circumstances. Everything goes on as usual, the trains, the trams, the buses and the office." Thus writes a special correspondent of the "Asahi" in a despatch from London. Describing his visit to the British capital the writer says, contrary to anticipation, his arrival at London by plane from Lisbon airport was marked by neither thrill nor adventure. The reporter experienced his first disillusionment when he arrived at the waiting room of the Lisbon airport where he saw a young lady with her four-year-old daughter looking as calm and unconcerned as if she were waiting for the next train at a country railway station. The little girl was playing with a doll with the happiest expression that a child could have.

All expectation and illusions of thrill and devastation vanished when the reporter saw this scene. The quiet entrance into London is described in the correspondent's own words as follows:

I took the plane at Lisbon, which is the centre of all air transportation in Europe. There were 11 passengers including myself. The motors of the huge ship suddenly roared, and we were already sailing through the air at a terrific speed. Wet clouds hung low. As soon as we passed over the Iberian peninsula I kept my eyes open for a British convoy, or for a German U-boat. But the Atlantic was calm with no sign of anything—not even a speck. I asked the boy our position, but he knew nothing. In fact, he knew nothing until he announced that we had arrived. Shortly afterwards, the blinds were lowered, and I leaned back and fell asleep.

### No Signs of Bombing

The setting sun illuminated the sea with a bright orange glow as our plane touched the waters of an unknown harbour. We saw a number of big ships anchored as we sped to shore on a launch that had come to meet us. But no sign of bombed buildings or burned houses. Owing to the delay in the customs inspection, it was already dark when I arrived in the port town. Motor cars and buses, with lights as dim as the glow from a cigarette, sped past each other with no congestion. The boy from the hotel took me to the police station where I registered my arrival. He held my arm all the way. I saw three searchlights illuminating the clouds, and asked my companion whether a raid was expected tonight. He answered in a most nonchalant tone of voice, "We have them most every night, but you don't have to worry."

### The Real Thing

Shortly after this I heard the first shrieks of the sirens, my first experience of a real raid. But nothing happened. After a good rest, I took the second train to London the next morning. On the way I saw two trenches, but no sign of where bombs might have dropped.

Before long I sighted the towers of Westminster Abbey and the Parliament buildings. The train arrived on time. When my taxi was passing over the Thames, I heard the first sirens since my arrival in London. The roads were congested, and the cars seemed to take their time. The people on the streets showed no signs of excitement. They practically seemed to ignore the sirens. No one ran into the shelters. Everything went on as usual.

On the second day after my arrival, I took a walk to see the evidence of the German bombings. The buildings that had been struck were completely destroyed. The ruins were a terrible sight, but the buildings remaining were in perfect condition. The contrast, side by side, was an extremely strange sight. Reuter.

0 253

0568

213

1485

附書風趣歌ヨリ通報越有リタルニ付一服風趣ノ上貴管内要職人  
トシテ名簿登録スルト共ニ最近ノ動靜風趣ノ上報告相成度（別紙  
名簿寫本備ノミ添付）此致通報券申進ス  
本備寫送付先 上海總領事  
北支警務部長

在中華民國日本大使館

0 255

0570

212

第一課長

情報部 寫

1485

中支警二機警第一六號  
昭和十五年十一月五日  
在 上 海  
中支警務部長事務取扱 堀内干城  
在 南 京  
總領事 杉原 茂 太 殿  
特要ノ赴寧ニ關スル件  
本 籍 東京市目黒區東町六二  
前任所 右ニ同シ  
行先地 日滿經濟研究所南京出張所  
警視廳編入共甲 森 下 覺  
右者客月三日東京ヲ出發シ爾嘗（貴）地ニ赴キタル旨十月十二日  
明治廿九年七月十日生

在中華民國日本大使館

0 254

0569

情 15.11.14 庶

1485

國共合作ノ現段階

0 257

0572

1485

第一課長

情報部

中支警二機密合第二六五號

昭和十五年十一月五日

在上海

中支警務部長事務取扱 堀内干城

宛先ハ末尾記載ノ通り

國共合作ノ現段階ニ關スル件

本件ニ關シ別添參考資料作成シタルニ付隸下警察官ニ御下達相成度

此段報告申進ス

本信送付先 中支各公館長

本信寫送付先 管下各署(所)長  
 北支警務部長、青島、天津、香港  
 南支各公館

0 256

0571

217

1485

30

一、緒言  
 昨年七、八月以來就中本年三、四月以後國共ノ相剋ヲ指示スル事件  
 カ相次イテ勃發、從ツテ一說ニハ國共分裂ノ時期カ近接シタト巷間  
 ニ喧傳サレ甚タシキハ十一月十二日國民大會召集ヲ前ニシテ民主憲  
 政ノ實現ニヨリ一氣ニ抗日政權ノ民主主義化ヲ確保シ政治的「ヘゲ  
 モニー」ヲ掌握セント中共側カ企圖シ居レリトカ（尤モ憲政實施モ  
 無期延期ニ決定五里霧中テアル）又一說ニハ摩擦ノ激化ヲ認メツツ  
 モ未タ容易ニ分裂期ニ到達セサルモノト固執セル兩觀測ニ對立シタ  
 學カ敵政權ノ本質ニ拘ハルモノナルヲ以テ更ニ檢討ヲ加ヘ十二分ニ  
 本質ヲ究明スル必要カアルト推察セラレリ偶々當地關係機關ニ於テ  
 文献ヲ主材トシ個人ノ主観ヲ加味シタル調書ヲ作成シタルモ將來之  
 カ兩論ヲ更ニ檢討シ詳シク規定セネバナラヌ

二、合作ノ事實  
 支那ニ於テ國共ノ合作ハ今度デ二回目デアール一九二四年カラ一九二

0574

0259

216

1485

目次

- 一、緒言
- 二、合作ノ事實
- 三、合作ノ理由
- 四、合作ノ理由ハ今尙存續ス
- 五、摩擦激化ノ事實
- 六、摩擦激化ノ理由
- 七、共產黨ノ態度
- 八、國民黨ノ態度
- 九、結言

0258

0573

三

七年ニ至ルモノガ第一次國共合作テアル其ノ後十年間國共ハ激烈ナ  
闘争ノ状態ニアツタ一九三六年末ニ起ツタ西安事件カ國共關係ヲ新  
階段ニ推シ進メタ抗日ノ爲ニ内戦ヲ停止シテ民族統一戦線ヲ結成ス  
ルコトニナツタ、一九三七年七月今次ノ支那事變ガ勃發スルヤ國共  
關係ハ全ク新段階ニ入り遂ニ八月第二次國共合作カ成立シタ、西北  
ソビエト政府ハ陝甘寧邊區政府ト改稱セラレ、紅軍ハ第八路軍ト  
改稱サレタ。南京カラ逃走シタ國民政府ハ漢口ニ於テ國民參政會ヲ  
開キ中央政治ニ共產黨ノ參與スル途ヲ開イタ。今日日本側ノ功勢ニ  
ヨツテ窮狀ニ追ヒ込マレテキルガ、尙國共ハ合作シテ日本ニ對シ抵  
抗ヲ續ケテキル。

三、合作ノ理由

ソノ社會的本質カラ言ヘバ互ニ他ヲ倒サズシテハ立黨ノ趣旨ヲ全  
ウジ得ヌコノ二ツノ黨ガ合作スルニハ相當ノ理由ガナケレバナラヌ。  
第一ハ民族的理由デアル。國民革命ノ遂行ニヨツテ支那ハ帝國主義  
ニ反對シテ來タガ、滿洲事變以後ノ日本ノ大陸發展ヲ支那ハソノ國

3

143

0575

0 260

1485

家の獨立ヲモ危クスル虞アル帝國主義的侵略トシテ受ケトリ、民族  
國家ノ獨立ヲ維持スル爲メニハ民族ノ總力ヲ擧ゲテ日本ニ抵抗セネ  
バナラヌト考ヘタ。國內ノ階級的闘争ハソノタメニ休載サレネバナ  
ラナカツタ。第二ハ國際的理由デアル。世界ノ帝國主義的支配ノ王  
座ニアタ英國ハ支那ノ赤化ニ反對スルト共ニ日本ノ大陸發展ニモ反  
對シタガ、日本ノ大陸發展ガ活潑トナルニ伴ヒ、等シク日本ノ發展  
ニ反對スル立場ニ立ツソ聯ト支那ニ於ケル對日共同戦線ヲ結成セン  
ト企圖シタ。コレハ一九三五年ノ幣制改革以後完全ニ英國ノ指導下  
ニアツタ蔣介石ノ國民政府ヲソ聯ノ息ノカカツタ中國共產黨ト妥協  
セシメルコトトナツタ。コノ國際的理由ハ第一次國共合作ニハナカ  
ツタモノデ、今次ノ合作ノ特色トシテ特ニ注意スベキモノデアル。

四、合作ノ理由ハ今尙存續シテキル

支那事變三年ノ經過ノウチテ日本ノ武力ノ全面的發動ハ支那ノ抗  
日勢力ニ重大ナ打撃ヲ加ヘタ。マタ日本ノ對支政策ハ所謂近衛聲明  
ナドニヨツテ次第ニ具體的姿ヲ現ハシ日本ノ大陸發展ガ決シテ單ナ

0576

0 261

ル帝國主義的侵略ト同ジテナイ所以ヲ明カニシタ。斯クテ一九三八  
 年末ニハ汪精衛一派ノ重慶ヲ脱出シ本年三月ニハ純正國民黨トシテ  
 和平反共ヲ旗印トシテ南京ニ復歸シ國民政府ヲ再建シタ。シカシナ  
 ガラ蔣介石ヲ統領トスル國民黨ノ主派ハ依然重慶ニアツテ抗日戰爭  
 ノ徹底的遂行ヲ呼ビ延安ノ中國共產黨ハ更ニ強硬ナ抗戰論ヲ主張シ  
 支那ノ大半ハ依然民族國家ノ滅亡トイフ幻影ニ脅カサレテ抗日ノ夢  
 カラ醒メナイデキル。英國トソ聯ノ關係ハ、一九三九年八月ノ獨ソ  
 不可侵條約ノ締結トソレニツク歐洲戰爭ノ勃發トニヨツテ、昔日  
 ノ親近性ヲ失ツタガ、兩國トモ歐洲ニ多忙デアアル限リ東洋ニ於ケル  
 對日關係ノ點テ相互ニ爭フコトヲ極力回避シタタメ、支那抗日勢力  
 ヲ援助スルコトニ於テハ依然トシテ共同ノ方針ヲ出テキル。歐洲ニ  
 於ケル獨逸ノ壓倒的勝利ト最近ノ日獨伊三國同盟ノ締結トハ、英國  
 ノ没落ヲ促進スルノミデナク、ソ聯ヲ繞ル國際關係ノ面目ヲ一新セ  
 シムベキモノデアルガ、且下ノトコロ尙ソノ影響ハ表面化セズ從ッ  
 テ支那抗日勢力援助ニ於テ帝ソハ吳越同舟ノ状態ヲ續ケテキル。

五 摩擦激化ノ事實  
 内外トモニ國共合作ノ基礎條件ハ依然存續シテキルニ拘ハラズ昨  
 年夏以來國共ノ摩擦ハ漸次激烈ヲ加ヘテ來タ。支那事變勃發ノ當初  
 ハ第八路軍ハ山西戰線ニ出動シ國民黨軍ト連絡シテ日本軍ニ當ツタ。  
 約半年ハ國共ノ摩擦等ハ傳ヘラレナカッタ。一九三八年二月漢口ニ  
 於テ共產黨機關紙「新華日報」ニ加ヘラレタ彈壓ガ國共ノ最初ノ摩  
 擦デアツタ。次テ武漢防衛戰ノ方略ニツイテ共產黨ハ市民ノ武装化  
 ニヨル徹底防衛ヲ主張シ國民黨軍ガ決戦ナシニ退却スルコトヲ攻撃  
 シタ。シカシ乍ラ武漢、廣東ノ陷落マデハ僅カナ意見ノ相意ガ現ハ  
 レタ程度デアツタ、國共ノ摩擦トイフ程デハナカッタ。然ルニ武漢  
 廣東ノ陷落ハ支那ノ抗戰體系ヲ根本的ニ變更セシメタ。外國カラノ  
 武器彈藥ノ補給ガ困難トナルニツレテ、一九三八年十一月ニ開カレ  
 タ南嶽軍事會議ハ遊撃戰ヲ以テ抗日戰爭遂行ノ主要戰術ナリト決定  
 シタ。新ニ編成サレタ國民黨新軍ヲモ交ヘテ遊撃戰展開ノタメニ國  
 共兩軍ハ前戦ニ出動シタ。シカルニ遊撃部隊ハ日本軍ト戦フ外ニ、

國共兩系統ノ間ニ地盤爭ヒラ生ジ、ソノ鬭争ハ武力衝突ニマテ發展シ。平江ニ於テ新四軍ガ國民黨軍ノ襲撃ヲウケタノヲ筆頭ニ部分的衝突ハ日常化シタ。河北省、山東省ノ如ク第八路軍系ノ勢力ノ強イトコロデハ國民黨系遊撃部隊ガ包圍サレ全滅サレタ。一九三九年夏國民黨軍ノ有力部隊ガ蘭州方面ニ移駐シタトキ陝西甘肅ノ南部ニ於テ國共兩軍ハ一週間ニ亘リ激戦ヲ交ヘタ。コレラノ衝突ハ夫々重慶及延安ニ報告セラレ抗議ヲ提出サセタ。中央ハンカシ常ニコレヲ握リツブシテ當面ノ合作維持ヲハカツタ。トハイヘ地方ニ於ケル衝突ノ激化ハ日ニ増シ、國民黨系地方將領ハ自己ノ地盤ノ喪失ヲ虞レテ漸次強ク反共ヲ要求シハジメタ。マダ汪精衛一派ノ活動ハ反共ヲ旗印トシテ次第ニ活潑ヲ加ヘタガ。コレハ重慶反共分子ニトツテ大キナカトナツタ。加フルニ歐洲戰爭ノ勃發ハ英ソ關係ニ若干ノ變更ヲモタラシタ。斯クテ一九三九年秋ニハ重慶國民黨ノ中央要人ガ公然反共ヲ主張シタ。十月ニ國民黨中央黨部秘書長張群ハ外國人記者トノ會見ノ席上テ中國共產黨ノ存在ヲ無視シ中國ニハ國民黨唯一ツ

0 264

0579

7

ダケガ存在スルト語ツタ。十二月ニハ何應ガ反共ノ必要ヲ語ツタ。本年二月ニハ從來共產黨ト近イ關係ニ立ツテキタ軍事委員會政治部長陳誠ガ紹興軍事會議テ「共產黨ハ遊シテ戦ハズ延安ニ一人ノ傷兵ナシ」ト痛烈ナ共產黨攻撃ヲシタ。三月ニハ程潛ノ率キル軍事委員會天水行營ハ政治部ノ名ヲ以テ猛烈ナ反共文書ヲ發表シソノ中デ共產黨ノ不法行為ヲ算ヘ舉ゲタ。四月ニハ第五次國民參政會ガ團結問題ヲ第一議題トシテ國共關係ノ調整ニ努メテキルトキ國民黨ハ秘密命令ヲ下級黨部ニ發シテ共產黨工作ノ取締強化ヲ計ツタ。一見シテ昨秋以來國民黨ガ共產黨ニ對シテ攻勢ニ出テキル如クニサヘ思ハレ

0580

0 265

六、摩擦激化ノ理由

歐洲戰爭ノ勃發ニヨツテ英國ハ東洋カラ出來ルダケ手ヲ抜カウトシ援蔣ルート切斷ノ日本ニヨル封鎖ハ益々強メラレツツアルトキ、又西北ルートニ對スル抗日勢力ノ依存ガ益々大トナリツツアルトキ、國共關係ニカカル摩擦ガ激化スルニハ深イ理由ガナケレバナラ

8

工業合作社運動ニヨル中小資本ノ動員、軍事工事ヘノ農民ノ徵用等ハ本質的ニハ政治的民衆動員デアアル。コレハ國民黨專制ノ行ハレテキタ支那ノ政治ニ新シイ勢力ヲ引キ入レルコトデアアルガ、カカル政治的民衆動員ハ共產黨ガ最も得意トスルトコロデアアリ、徹底セル民主政治ノ實現ニヨル國家總力ノ動員トイフ口實ノモトニ憲政實施要求ノ問題ヲトラヘ中國共產黨ハ廣汎大規模ナ獨自ノ政治的宣傳工作ヲ進メタ。抗日戰爭遂行ノタメト稱シテ斯クノ如キ共產黨ノ政治的進出ヲミルコトハ國民黨ノ堪ヘ難イトコロデアツタ。〇、〇國系ノ理論家ヲ先頭ニシテ反共ノ論陣ガ展開サレ、地方將領ヤ長老派カラ反共通電ガ發セラレタ理由ハココニアリ、コレガ國共摩擦激化ノ理由ノ第一デアアル。コレモ亦今日憲政實施問題ヲメグツテ益々深刻化シテキル。加フルニ歐洲戰爭勃發ト共ニソ聯ガ一流ノ中立的地位ニ立チ英國ト鋭イ對立關係ニ立ツコトトナツタコト方國共合作ニ響イテ來タ。英國ハ重慶ヲ反ソ戰線ニ引キ入レルベク日本ト重慶トノ交渉ヲ斡旋スベキジエヌテニアラシ、反獨的ナ米國ノ輿論ヲウケテ

ナラヌ。南嶽軍事會議ガ遊撃戰主義ヲ採用シテ後、武器彈藥ノ補給困難ハ益々甚ダシク、第一線遊撃部隊ハソノ自給自足ヲハカラネバナラナクナツタ。一部分ハ日本軍兵站線ノ襲撃ニヨツテ補給ノ足シニスル計畫ガアルトハイヘ、ソレニ頼ルコトハ出來ナイ。工業合作社運動ノ展開ニヨツテ貧弱ナガラ武器彈藥ノ自給ガ企テラレタ。シカン支那ノ如ク勞働生産性ノ低イトコロニ於テハ相當數量ノ生産成績ヲ舉ルニハ廣ク集メルホカナイ、加フルニ食糧ノ補給ハ特ニ廣イ勢力範圍 地盤ヲ必要トシタ。一九三九年春以後トリワケテ遊撃地區ニ地盤爭奪ガ激化シタ根本理由ハ支那側兵站補給ノ著シイ減少デアアル。コレガ國共摩擦激化ノ第一ノ理由デアリ今日益々強メラレツツアルモノデアアル。外國カラノ武器彈藥ノ補給ガ困難トナリ武器彈藥ヲ自給シ戰時食糧ヲ確保スルトコトガ益々必要トナツテ來レバ、國內生産力ヲ工農兩部面ニ於テ高メネバナラヌガ、主要工業地ヲ日本軍ニ押ヘラレタ状態ノモトデバ、奧地ノ建設ニ頼ルホカナイ。茲テモ支那ノ勞働生産性ノ低イトコロハ數ニ頼ルホカナカラシメルカ、



227

共產黨本來ノ要素トイフベキプロレタリア要素ニ缺乏シテキル中國  
 共產黨ハ、將來社會主義國カラノ全面的援助ヲ得テ支那ガ所謂「非  
 資本主義的發展ノコース」ニ進ムベキコトヲ展望シテ、目前ニハ、  
 帝國主義ト封建勢力トニ反對シテ民主政治ノ實現ニ努メルデアラウ。  
 彼等ハ總ニル犧牲ヲシテ抗日民族統一戰線ヲ守リシノ間憲政實  
 施問題等ヲトラヘテ民衆ノ間ニシテ政治的宣傳ヲ普及セシメルデア  
 ラウ。一説ニハコミンテルンヨリ中國共產黨ヘ全力ヲ盡シ國共合作  
 ヲ維持スベシトノ指令ガ與ヘラレタト傳ヘラレテキル程デテル。共  
 産黨ガ自ラ手段ヲ用ヒテ國共合作ヲ分裂ニオトシ入レルコトハ當面  
 考ヘラレナイ。昨秋張群ノ共產黨無視ノ談話ニ對シテ毛澤東ハ共產  
 黨ノ存在ヲ主張シ更ニ本年春ノ天水行營ノ反共文書ニ對シテ共產黨  
 側ハ辨明ヲ試ミテキルガ一般ニ反共工作ヲ國民黨ノ「一部頑固分子」  
 ノ所爲トシテ批難スルニ止メ國民黨全面的ニ攻撃スルコトヲ避ケテ  
 キル。然シコレヲ〇、〇團ノ企圖スル如キ共產黨ヲ國民黨ニ從屬セ  
 シメル國共合作ヲ成功ト解スルコトハ出來ナイ。中國共黨ノ蔣介石

19

0 269

0584

226

重慶親米分子ハソ聯ノ波蘭進駐ヲ赤色帝國主義ノ侵略ト解シタ。ソ  
 聯ニ對スル恐怖ハ相當廣汎ニ人々ヲトラヘタ。其ノ後ソ聯ハバルチ  
 ツク諸國ニ出兵シ芬蘭ト戰火ヲ交ヘ、最近ニハソレ等ヲ大部分ソ聯  
 ニ併合シテンマツタ。茲ニソ聯ヲ警戒スルコトニ基ク重慶側ノ反共  
 理由ガアル。コレハ國共摩擦激化ノ理由ノ第三テアル。最後ニ汪精  
 衛一派ノ工作ガ順調ニススメバソレダケ反共分子ノ心ハ動搖分子ヲ  
 トラヘテ置ク爲メニハ重慶ハ反共態度ヲカナリ明確ニ示サネバナラ  
 ナクナル。コノ第四ノ理由モ今日益々強メラレツツアル。  
 七 中國共產黨ノ態度  
 中國共產黨ハ數多クノ決議ヤ宣言ノ中デソノ態度ヲ表明シテキル  
 ガ、社會主義的世界革命ノ目下ノ發展段階カラ言ヘバ、支那革命ハ  
 日本帝國主義ニ抵抗シソソ國內封建勢力ヲ清算シ新民主主義ヲ實現  
 スルコトヲ任務トスルトイフ毛澤東ノ理論カソレヲ指導シテキル。  
 從ツテ國民黨ガ反共トイフデタトイフヤラヌ限リ部分的摩擦ニハ頗被テ  
 押通シドコマデモ抗日ノタメノ合作ヲ維持シヤウト努メルニチガテ

19

0 268

0583

擁護ハドコマテモソノ戰略論タル新民主主義實現ノ角度カラナサレ  
 テキルコトヲ忘レテハナラナイ。共產黨ハソノ掌中ニアル西北地區  
 ト遊撃區トノ勢力ヲ固定ヲ計リソノ地ニ傷害スルトコロノ「模範民  
 主政治」ヲ實現セシメ、且ツ全國ニ亘ル政治的宣傳ヲ強化スルガ、  
 ソノ際國共摩擦ノ漸次激化スルコトヲ覺悟シテキル。周恩來ハ六月  
 ハジメ共產國際機關誌「カー、イー」ニ論文ヲ寄セテ、蔣介石ガ第  
 八路軍新四軍ノ勢力ヲソグゴトトヲ考ヘルカモ知レヌカラ兩軍ヲ適  
 當ニ移動サセテ根據地ヲ鞏固ニセネバナラヌト述ベタ。最近新四軍  
 逐次北方ニ移動シテ河北山東方面ノ共產黨遊撃部隊ト連絡スルコト  
 ニ成功シタト傳ヘラレテウルノハ、オソラク共產黨側豫定ノ行動デ  
 アルデアラウ。

八、國民黨ノ態度

共產黨側ヨリ國共合作ヲ打切ルベキ決定的手段ニ出ルコトハ當面  
 考ヘラレヌトキ、國民黨側ハ如何ナル態度ニ出テキルカト言フニ、

共產黨ノ政治的進出ヲ極度ニ警戒シソソノ經濟的優勢ガ壓倒的デ  
 アルコトニヨリ抗日戰爭ノ指導權ヲ掌握シ共產黨ヲシテ「翼ヲ擔ハ  
 シテキル。外國ヨリノ武器彈藥補給ノ困難ハ重慶ヲ困惑セシメテキ  
 ルガ彼等ハ尙持久スレバ國際情勢ノ變化ニヨリ日本ノ戰爭能力ガ減  
 退スルノ日ヲ迎ヘ得ルト空想シ民衆ノ膏血ヲ絞ツテ抗戰能力ノ維持  
 ニ努メテキル。輿地工業建設ノ資金不足ヲ切抜ケル爲メニ工業合作  
 社運動ヲ進メテキルガ到底充分ナモノデハナイ。農業生産力ノ昂揚  
 ノ爲メニハ一部分合作社運動ガ試ミラレテキルガ大勢ハ依然トシテ  
 封建的農業ニ頼ツテキル。茲ニハ勞働力ノ徵用等ノ問題ハアツテモ  
 本來ノ意味ノ民主政治ノ要求ハナイ。憲政實施問題ニ於テ國民黨ガ  
 躊躇シテキル理由ハ、既ニ國民黨專政ニヨツテ國民經濟ヲ制羈シタ  
 大資本ノ勢力ガコノ封建勢力ト握手シテキルトコロデアアル。戰爭ノ  
 必要ガ更ニ工農ニワタル大増産ヲ促ストキ新シイ政治的民衆動員ガ  
 新シイ社會關係ノ導入ヲ促進スルデアラウガ、ソレハ共產黨ノ主張  
 スル「新民主主義」ニ向ハスシテ、却ツテ行政權力ノ強化ニヨル一

擁護ハドコマテモソノ戰略論タル新民主主義實現ノ角度カラナサレ  
 テキルコトヲ忘レテハナラナイ。共產黨ハソノ掌中ニアル西北地區  
 ト遊撃區トノ勢力ヲ固定ヲ計リソノ地ニ傷害スルトコロノ「模範民  
 主政治」ヲ實現セシメ、且ツ全國ニ亘ル政治的宣傳ヲ強化スルガ、  
 ソノ際國共摩擦ノ漸次激化スルコトヲ覺悟シテキル。周恩來ハ六月  
 ハジメ共產國際機關誌「カー、イー」ニ論文ヲ寄セテ、蔣介石ガ第  
 八路軍新四軍ノ勢力ヲソグゴトトヲ考ヘルカモ知レヌカラ兩軍ヲ適  
 當ニ移動サセテ根據地ヲ鞏固ニセネバナラヌト述ベタ。最近新四軍  
 逐次北方ニ移動シテ河北山東方面ノ共產黨遊撃部隊ト連絡スルコト  
 ニ成功シタト傳ヘラレテウルノハ、オソラク共產黨側豫定ノ行動デ  
 アルデアラウ。

八、國民黨ノ態度

共產黨側ヨリ國共合作ヲ打切ルベキ決定的手段ニ出ルコトハ當面  
 考ヘラレヌトキ、國民黨側ハ如何ナル態度ニ出テキルカト言フニ、

共產黨ノ政治的進出ヲ極度ニ警戒シソソノ經濟的優勢ガ壓倒的デ  
 アルコトニヨリ抗日戰爭ノ指導權ヲ掌握シ共產黨ヲシテ「翼ヲ擔ハ  
 シテキル。外國ヨリノ武器彈藥補給ノ困難ハ重慶ヲ困惑セシメテキ  
 ルガ彼等ハ尙持久スレバ國際情勢ノ變化ニヨリ日本ノ戰爭能力ガ減  
 退スルノ日ヲ迎ヘ得ルト空想シ民衆ノ膏血ヲ絞ツテ抗戰能力ノ維持  
 ニ努メテキル。輿地工業建設ノ資金不足ヲ切抜ケル爲メニ工業合作  
 社運動ヲ進メテキルガ到底充分ナモノデハナイ。農業生産力ノ昂揚  
 ノ爲メニハ一部分合作社運動ガ試ミラレテキルガ大勢ハ依然トシテ  
 封建的農業ニ頼ツテキル。茲ニハ勞働力ノ徵用等ノ問題ハアツテモ  
 本來ノ意味ノ民主政治ノ要求ハナイ。憲政實施問題ニ於テ國民黨ガ  
 躊躇シテキル理由ハ、既ニ國民黨專政ニヨツテ國民經濟ヲ制羈シタ  
 大資本ノ勢力ガコノ封建勢力ト握手シテキルトコロデアアル。戰爭ノ  
 必要ガ更ニ工農ニワタル大増産ヲ促ストキ新シイ政治的民衆動員ガ  
 新シイ社會關係ノ導入ヲ促進スルデアラウガ、ソレハ共產黨ノ主張  
 スル「新民主主義」ニ向ハスシテ、却ツテ行政權力ノ強化ニヨル一

對日交渉ニ有利ナ條件ヲ獲得セントノ考ヘガ存在シテキル、蔣介石  
 現現在西北ル一トヲ頼トシ乍ラ國共合作ヲ維持シツツ、世界情勢ノ  
 變化ヲ注視シ、親米派親獨派ニ夫々ノ部署ヲ與ヘテキル。去ル七月  
 ノ七中全會ハ多數ノ問題ヲ三箇ノ特別委員會ニ附託シタママ結論ラ  
 出サズニ終ツタト傳ヘラレルガ、其ノ第一ハ和戰、第二ハ外交、第  
 三ハ黨務即チ國共關係ヲ取り扱フ筈デアアル。日本ノ新體制ノ建設ガ  
 急速ニ進メラレルナラバ重慶和平派ノ勢力ハ急激ニ高マリ、第二第  
 三ノ問題ヲ吹キ消ステデアラウガ、然ラスシテナホ抗戰ガ續ケラレル  
 トキ、親英米ト親ソカ正面對立シノ間親獨派ガ秘カニ和平派ト提  
 携スルコトニナラウ。歐洲カラ衝鋒ガ來ネバコノ場合摩擦ヲ益々激  
 化サセナガラ國共合作ハ維持サレルデアラウ。

九 結 言

故ニ我々ハ、日本ノ新體制ノ建設ガ問題ノ前途ヲ決定スル一ツノ  
 鍵デアルトノ結論ニ達スル。建設ガ急速ニ進メバ壓倒的ナ優勢ハ重  
 慶ヲシテ反共一ツターヲ決行シ日本トノ和平交渉ニ移ランメルガ、

種ノ全體主義ニ向フデアラウ。ソノ喰ヒ違ヒガ國共ノ分裂ヲ齎ス場  
 合ニハ國民黨ハ反共一ツターニ訴ヘネバナラヌ。シカシ今度ハ一  
 九二七年ノ如ク手輕ニハ行カヌ。日本トノ直接交渉、若クハ汪精衛  
 フ媒介トスル間接交渉ト同時ニコノ反共一ツターヲ斷行スル事ハ  
 目下ノトコロ可能性ガナイ。歐洲戰爭ガ全世界ニ擴大シ日本ガ對英  
 宣戰布告ヲスルトキ、米國ノ參戰如何ニ拘ハラズ、重慶ハ現在ノ態  
 度ヲツツケルデアラウ。彼カ英米側ニ立ツテ參戰スル可能性ハモト  
 ヨリ全ク存在シナイ。コレニ反シテ英獨決戰ガ獨逸ノ勝陸ニ歸シ、  
 英國ガ屈伏スルカ若クハ本國ヲステテ抗戰スル場合、歐洲ニ獨逸ヲ  
 中心トシテ新體制ノ建設ガ日程ニノボルトキ、必ズ獨ソ關係ニ一ノ  
 轉換ガ來リ、ソ聯ヲメグツテ急迫シタ事態ヲ生スルデアラウ。ソ聯  
 ガ戰爭ニ捲キ込マレルトキコソ重慶ガ反共一ツターヲ決行スル機  
 會デアアル。其ノ際獨逸ノ媒介ニヨツテ重慶ハ日本トノ和平關係ニ入  
 ルコトデアラウ。シカシ乍ラ重慶親獨派ノ頭ノ中ニハ、日本ノ新體  
 制ガ遲々トシテオウルニ乘ジテ、獨逸ノ壓力ヲ逆用シテ日本ヲ壓迫シ

1485

17

然ラザルトキハ問題展開ハ世界情勢、特ニ獨ソ關係ノ將來ニカカツ  
テキルト考ヘラレル、之レガ國共合作ノ現段階ガ我々ニ語ルトコロ  
ノ結論テアル。

0589

0 274

REEL No. A-0243

0 3 8 8

228

1485

國 共 合 作 の 現 段 階

外 務 省

(日本標準規格B5)

0 276

0591

233

1485

中支警二機密合第二六五號

昭和十五年十一月五日

在 上 海

中支警務部長事務取扱 堀 山 千 城

國 共 合 作 の 現 段 階 に 關 する 件

本件に關し別添參考資料作成したるに付隸下警察官に御下達相成度  
此段報告申進す

本信送付先 中支各公館長

本信寫送付先 管下各署(所)長

北支警務部長、青島、天津、香港

南支各公館

外 務 省

(日本標準規格B5)

0 275

0590

REEL No. A-0243

0 2 7 5

目次

- 一 緒言
- 二 合作の事實
- 三 合作の理由
- 四 合作の理由は今尙存続す
- 五 摩擦激化の事實
- 六 摩擦激化の理由
- 七 共産黨の態度
- 八 國民黨の態度
- 九 結言

外務省

0 277

0592

一 緒言

昨年七、八月以來就中本年三、四月以後國共の相剋を指示する事件が相次いで勃發、従つて一説には國共分裂の時期か近接したと巷間に喧傳され甚たしきは十一月十二日國民大會召集を前にして民主憲政の實現により一氣に抗日政權の民主主義化を確保し政治的ヘゲモニーを掌握せんと中共側か企圖し居れりとか（尤も憲政實施も無期延期に決定五里霧中である）又一説には摩擦の激化を認めつつも未だ容易に分裂期に到達せざるものと固執せる兩觀測に對立した事か敵政權の本質に拘はるものなるを以て更に検討を加へ十二分に本質を究明する必要があると推察せられり偶々當地關係機關に於て文献を主材とし個人の主観を加味したる調書を作成したるも將來之か兩論を更に検討し詳しく規定せねばならぬ。

二 合作の事實

支那に於て國共の合作は今度で二回目である一九二四年から一九二

外務省

0 278

0593

238

1485

義に反対して来たか、満洲事變以後の日本の大陸表展を支那はその國家的獨立をも危くする虞ある帝國主義的侵略として受けとり、民族國家的獨立を維持する爲めには民族の總力を擧げて日本に抵抗せねばならぬと考へた。國內の階級的闘争はそのため休載されねばならなかつた。第二は國際的理由である。世界の帝國主義的支配の王座にあつた英國は支那の赤化に反対すると共に日本の大陸發展にも反対したか、日本の大陸表展が活潑となるに伴ひ、等しく日本の發展に反対する立場に立つソ聯と支那に於ける對日共同戰線を結成せんと企圖した。これは一九三五年の幣制改革以後完全に英國の指導下にあつた蔣介石の國民政府をソ聯の息のかかつた中國共產黨と妥協せしめることとなつた。この國際的理由は第一次國共合作にはなかつたもので、今次の合作の特色として特に注意すべきものである。

四 合作の理由は今尙存續してゐる

支那事變三年の経過のうちで日本の武力の全面的發動は支那の抗日

外務省

(日本標準規格B5)

0 280

0595

227

1485

七年に至るものか第一次國共合作である其の後十年間國共は激烈な闘争の狀態にあつた一九三六年末に起つた西安事件が國共關係を新階段に推し進めた抗日の爲に内戦を停止して民族統一戰線を結成することになつた、一九三七年七月今次の支那事變が勃發するや國共關係は全く新段階に入り遂に八月第二次國共合作が成立した、西北ソヴェート政府は陝甘寧邊區政府と改稱せられ、紅軍は第八路軍と改稱された。南京から逃走した國民政府は漢口に於て國民參政會を開き中央政治に共產黨の關與する途を開いた。今日日本側の攻勢によつて窮狀に追ひ込まれてゐるか、尙國共は合作して日本に對し抵抗を續けてゐる。

三 合作の理由

その社會的本質から言へば互に他を倒さずしては立黨の趣旨を全うし得ぬこの二つの黨が合作するには相當の理由かなければならぬ。第一には民族的理由である。國民革命の遂行によつて支那は帝國主

外務省

(日本標準規格B5)

0 279

0594

REEL No. A-0243

勢力に重大な打撃を加へた。また日本の對支政策は所謂近衛聲明等によつて次第に具體的姿を現はし日本の大陸發展か決して單なる帝國主義的侵略と同してない所以を明かにした。斯くて一九三八年末には汪精衛一派の重慶を脱出し本年三月には純正國民黨として和平反共を旗印として南京に復歸し國民政府を再建した。しかしながら蔣介石を統領とする國民黨の主流は依然重慶にあつて抗日戦争の徹底的遂行を呼び延安の中國共產黨は更に強硬な抗戰論を主張し支那の大半は依然民族國家の滅亡といふ幻影に脅かされて抗日の夢から醒めないでゐる。英國とソ聯の關係は、一九三九年八月の獨ソ不可侵條約の締結とそれにつづく歐洲戦争の勃發とによつて、昔日の親近性を失つたか、兩國とも歐洲に多忙である限り東洋に於ける對日關係の點て相互に争ふことを極力回避したため、支那抗日勢力を援助することに於いては依然として共同の方針で出處してゐる。歐洲に於ける獨逸の壓倒的勝利と最近の日獨伊三國同盟の締結とは、英國

(日本標準規格B5)

0 281

0596

外務省

の没落を促進するのみでなく、ソ聯を繞る國際關係の面目を一新せしむべきものであるか、目下のところ尙その影響は表面化せず從つて支那抗日勢力援助に於て帝ソは吳越同舟の状態を續けてゐる。

五 摩擦激化の事實

内外共に國共合作の基礎條件は依然存續してゐるに拘はらず昨年夏以來國共の摩擦は漸次激烈を加へて來た。支那事變勃發の當初は第八路軍は山西戰線に出勤し國民黨軍と連絡して日本軍に當つた。約半年は國共の摩擦等は傳へられなかつた。一九三八年二月漢口に於て共產黨機關紙「新華日報」に附加へられた彈壓が國共の最初の摩擦であつた。次て武漢防衛戦の方略について共產黨は市民の武装化による徹底防衛を主張し國民黨軍が決戦なしに退却することを攻撃した。しかしながら武漢、廣東の陥落までは僅かな意見の相違が現れた程度であつた。國共の摩擦といふ程ではなかつた。然るに武漢、廣東の陥落は支那の抗戰體系を根本的に變更せしめた。外國からの

(日本標準規格B5)

0 282

0597

外務省



242

印として次第に活潑を加へたか、これは重慶反共分子にとつて大きな力となつた。加ふるに歐洲戦争の勃發は英ソ關係に若干の變更をもたらした。斯くて一九三九年秋には重慶國民黨の中央要人か公然反共を主張した。十月に國民黨中央黨部秘書長張群は外國人記者との會見の席上で中國共產黨の存在を無視し中國には國民黨唯一つだけか存在すると語つた。十二月には何應欽か反共の必要を語つた。本年二月には從來共產黨と近い關係に立つて來た軍事委員會政治部長陳誠か紹關軍事會議で「共產黨は遊して戦はず延安に一人の傷兵なし」と痛烈な共產黨攻撃をした。三月には程潛の率ゐる軍事委員會天水行營は政治部の名を以て猛烈な反共文書を發表しその中で共產黨の不法行爲を算へ擧げた。四月には第五次國民參政會か團結問題を第一議題として國共關係の調整に努めてゐるとき國民黨は秘密命令を下級黨部に發して共產黨工作の取締強化を計つた。一見して昨秋以來國民黨か共產黨に對して攻勢に出る如くにさへ思はれる

外務省

(日本標準規格B5)

0.284

0599

241

武器彈藥の補給か困難となるにつれて、一九三八年十一月に開かれた南嶽軍事會議は遊撃戦を以て抗日戦争遂行の主要戦術なりと決定した。新に編成された國民黨新軍をも交へて遊撃戦展開のために國共兩軍は前戦に出動した。しかるに遊撃部隊は日本軍と戦ふ外に、國共兩系統の間に地盤争ひを生し、その闘争は武力衝突にまで發展し、平江に於て新五軍か國民黨軍の襲撃をうけたのを筆頭に部分的衝突は日常化した。河北省、山東省の如く第八路軍系の勢力の強いところは國民黨系遊撃部隊か包圍され全滅された。一九三九年夏國民黨軍の有力部隊か蘭州方面に移駐したとき陝西甘肅の南部に於て國共兩軍は一週間に亘り戦戦を交へた。これらの衝突は夫々重慶及延安に報告せられ抗議を提出させた。中央はしかし常にこれを握りつゝして當面の合作維持をはかつた。とはいへ地方に於ける衝突の激化は日に増し、國民黨系地方將領は自己の地盤の喪失を慮れて漸次強く反共を要求しはしめた。また汪精衛一派の活動は反共を旗

外務省

(日本標準規格B5)

0.283

0598

214

1485

これか國共摩擦激化の第一の理由であり今日益々強められつつあるものである。外國からの武器彈藥の補給が困難となり武器彈藥を自給し戦時食糧を確保すること益々必要となつて來れば、國內生産力を工農兩部面に於て高めねばならぬか、主要工業地を日本軍に押へられた状態のもとでは、奥地の建設に頼るほかない。茲ても支那の勞働生産性の低いことは數に頼るほかないからしめるか、工業合作社運動による中小資本の動員、軍事工事への農民の徵用等は本質的には政治的民衆動員である。これは國民黨專制の行はれてきた支那の政治に新しい勢力を引き入れることであるか、かかる政治的民衆動員は共產黨が最も得意とするところであり、徹底せる民主政治の實現による國家總力の動員といふ口實のもとに憲政實施要求の問題をとらへ中國共產黨は廣汎大規模な独自の政治的宣傳工作を進めた。抗日戦争遂行のためと稱して斯くの如き共產黨の政治的進出をみることは國民黨の堪へ難いところであつた。C、C團系の理論家

外務省

(日本標準規格 B5)

0 286

0601

213

1485

### 六 摩擦激化の理由

歐洲戦争の勃發によつて英國は東洋から出来るたけ手を抜かりとし援蔣ルート切斷の日本による封鎖は益々強められつつあるとき、又西北ルートに對する抗日勢力の依存が益々大となりつつあるとき國共關係にかかる摩擦が激化するには深い理由がなければならぬ。南嶽軍事會議が遊撃戰主義を採用して後、武器彈藥の補給困難は益々甚たしく、第一線遊撃部隊はその自給自足をはからねばならなくなつた。一部分は日本軍兵站線の襲撃によつて補給の足しにする計畫があるとはいへ、それに頼ることは出来ない。工業合作社運動の展開によつて貧弱なから武器彈藥の自給が企てられた。しかし支那の如く勞働生産性の低いところに於ては相當數量の生産成績を擧げるには廣く集めるほかない、加ふるに食糧の補給は特に廣い勢力範圍を整へる必要とした。一九三九年春以後とりわけて遊撃地區に地盤争奪が激化した根本理由は支那側兵站補給の著しい減少である

外務省

(日本標準規格 B5)

0 285

0600

REEL No. A-0243

mp6

る。この第四の理由も今日益々強められつつある。

七 中國共產黨の態度

中國共產黨は數多くの決議や宣言の中でその態度を表明してゐるか、社會主義的世界革命の目下の發展段階から言へば、支那革命は日本帝國主義に抵抗しつつ國內封建勢力を清算し新民主主義を實現することを任務とするといふ毛澤東の理論がそれを指導してゐる。従つて國民黨が反共クイデターをやらぬ限り部分的摩擦には頗被て押通しとこまでも抗日のための合作を維持しやうと努めるにちかいない。共產黨本來の要素といふべきプロレタリア要素に缺乏してゐる中國共產黨は、將來社會主義國からの全面的援助を得て支那か所謂「非資本主義的發展のコース」に進むべきことを展望し乍ら、目前には帝國主義と封建勢力とに反對して民主政治の實現に努めてあらう。彼等は總ゆる犠牲をしのんで抗日民族統一戦線を守りその間憲政實施問題等をとらへて民衆の間にその政治的宣傳を普及せしめるてあ

外務省

(日本標準規格 B5)

0 288

0603

mp5

を先頭にして反共の論陣が展開され、地方將領や長老派から反共通電が發せられた理由はここにあり、これか國共摩擦激化の理由の第二である。これも亦今日憲政實施問題をめくつて益々深刻化してゐる。加ふるに歐洲戦争勃發と共にソ聯か一流の中立的地位に立ち英國と鋭い對立關係に立つこととなつたことか國共合作に響いて來た英國は重慶を反ソ戦線に引き入れるべく日本と重慶との交渉を斡旋すべきジエヌチユアを示し、反獨的な米國の輿論をうけて重慶親米分子はソ聯の波蘭進駐を赤色帝國主義の侵略と解した。ソ聯に對する恐怖は相當廣汎に人々をとらへた。其の後ソ聯はバルチツク諸國に出兵し芬蘭と戦火を交へ、最近にはそれ等を大部分ソ聯に併合してしまつた。茲にソ聯を警戒することに基く重慶側の反共理由がある。これは國共摩擦激化の理由の第三である。最後に汪精衛一派の工作か順調にすすめはそれたけ反共分子の心は動搖分子をとらへて置く爲めには重慶は反共態度をかなり明確に示さねはならなくな

外務省

(日本標準規格 B5)

0 287

0602

らう。一説にはコミンテルンより中國共產黨へ全力を盡し國共合作を維持すべしとの指令か與へられたと傳へられてゐる程である。共產黨か自ら手段を用ひて國共合作を分裂におとし入れることは當面考へられない。昨秋張群の共產黨無視の談話に對して毛澤東は共產黨の存在を主張し更に本年春の天水行營の反共文書に對して共產黨側は辯明を試みてゐるか一般に反共工作を國民黨の「一部頑固分子の所爲として批難するに止め國民黨全面的に攻撃することを避けてゐる。然しこれをC、C團の企圖する如き共產黨を國民黨に從屬せしめる國共合作を成功と解することは出来ない。中國共黨の蔣介石擁護はとこまでもその戰略論たる新民主主義實現の角度からなされてゐることを忘れてはならない。共產黨はその掌中にある西北地區と遊撃區との勢力を固定を計りその地に傷害するところの「模範民主政治」を實現せしめ、且つ全國に亘る政治的宣傳を強化するか、その際國共摩擦の漸次激化することを覺悟してゐる。周恩來は六月

(日本標準規格B5)

0 289

0604

外務省

はしめ共產國際機關誌カ。イーに論文を寄せて、蔣介石か第八路軍新四軍の勢力をそくことを考へるかも知れぬから兩軍を適當に移動させて根據地を鞏固にせねばならぬと述べた。最近新四軍逐次北方に移動して河北山東方面の共產黨遊撃部隊と連絡することに成したと傳へられてゐるのは、おそらく共產黨側豫定の行動であるであらう。

八 國民黨の態度

共產黨側より國共合作を打切るべき決定的手段に出ることは當面考へられぬとき、國民黨側は如何なる態度に出てゐるかと言ふに、共產黨の政治的進出を極度に警戒しつつその經濟的優勢か壓倒的であることにより抗日戦争の指導權を掌握し共產黨をして一翼を擔はしてゐる。外國よりの武器彈藥補給の困難は重慶を困惑せしめてゐるか彼等は尙持久すれば國際情勢の變化により日本の戦争能力か減退するの目を迎へ得ると空想し民衆の膏血を絞つて抗戰能力の維持に

(日本標準規格B5)

0 290

0605

外務省

努めてゐる。奥地工業建設の資金不足を切抜ける爲めに工業合作社運動を進めてゐるか到底充分なものではない。農業生産力の昂揚の爲めには一部分合作社運動を試みられてゐるか大勢は依然として封建的農業に頼つてゐる。茲には労働力の徴用等の問題はあつても本來の意味の民主政治の要求はない。憲政實施問題に於て國民黨が躊躇してゐる理由は、既に國民黨專政によつて國民經濟を制覇した大資本の勢力がこの封建勢力と握手してゐるところである。戦争の必要か更に工農にわたる大増産を促すとき新しい政治的民衆運動員か新しい社會關係の導入を促進するであらうか、それは共產黨の主張する「新民主主義」に向はすして、却つて行政權力の強化による一種の全體主義に向ふてあらう。この喰ひ違ひか國共の分裂を齎す場合には國民黨は反共クレーターに訴へねはならぬ。しかし今度は一九二七年の如く手輕には行かぬ。日本との直接交渉、若くは汪精衛を媒介とする間接交渉と同時にこの反共クレーターを斷行する事は

外務省

目下のところ可能性かない。歐洲戦争が全世界に擴大し日本が對英宣戦布告をするとき、米國の參戰如何に拘はらず、重慶は現在の態度をつつけるであらう。彼が英米側に立つて參戰する可能性はもとより全く存在しない。これに反して英獨決戦か獨逸の勝利に歸し、英國が屈伏するか若くは本國をすてて抗戰する場合、歐洲に獨逸を中心として新體制の建設か日程にのぼるとき、必ず獨ソ關係に一の轉換か來り、ソ聯をめぐつて急迫した事態を生ずるであらう。ソ聯が戦争に捲き込まれるときこそ重慶か反共クレーターを決定する機會である。其の際獨逸の媒介によつて重慶は日本との和平關係に入る)ことであらう。しかし乍ら重慶親獨派の頭の中には、日本の新體制か遅々としておるに乗して、獨逸の壓力を逆用して日本を壓迫し對日交渉に有利な條件を獲得せんと考へか存在してゐる、蔣介石現在西北ルートに頼るとし乍ら國共合作を維持しつつ、世界情勢の變化を注視し、親米派親獨派に夫々の部署を與へてゐる。去る七月

外務省

の七中全會は多數の問題を三箇の特別委員會に附託したまま結論を出さず終つたと傳へられるか、其の第一は和戦、第二は外交、第三は黨務即ち國共關係を取り扱ふ筈である。日本の新體制の建設が急速に進められるならば重慶和平派の勢力は急激に高まり、第二第三の問題を吹き消すてあらうか、然らずしてなほ抗戦が續けられるとき、親英米と親ソか正面对立しその間親獨派が秘かに和平派と提携することにならう。歐洲から衝擊が來ねばこの場合摩擦を益々激化させなから國共合作は維持されるてあらう。

九 結 言

故に我々は、日本の新體制の建設が問題の前途を決定する一つの鍵であるとの結論に達する。建設が急速に進めば壓倒的な優勢は重慶をして反共クイターを決行し日本との和平交渉に移らしめるか、然らざるときは問題展開は世界情勢、特に獨ソ關係の將來にかかつてゐると考へられる。之れが國共合作の現段階が我々に語るところの結論である。

外務省

(日本標準規格B5)

0 293

0608A

REEL No. A-0243

